

# 3週間後に証明されるでしょう。「小柄かつ華奢で 鋭い差し脚を持つ追い込み選手は弥彦で好走する理論」



今もS級で走っている選手の中で、弥彦が得意だったのは山口富生。記念V1回、準V2回、ふるさとダービー決勝3着など、とにかく突っ込んできた。164cm、66kgと小柄で華奢。シャープな差し脚が持ち味で、縫うようなハンドルさばきができる追い込み選手。引退した選手の顔も浮かぶけど、昔話かよって笑われるから。

あっせんされている108人を見渡した。背格好、そして競走スタイルが山口みたいな選手を2人ピックアップしました。

▼167cm 72kgの椎木尾拓哉  
▼156cm 53kgの坂口晃輔

園田匠は寛仁親王牌を獲得しているし、志村太賀は地元選手で、また紹介するので、今回は除かせてもらいます。

まずは椎木尾。ここ3回は記念のあっせん。2016年こそ準決で1着失格だが、2017年は準V。2018年は決勝の7着。11走して、1勝、2着4回。やっぱ

りいいじゃないですか。坂口は少し古いけど、2010年、2011年のF1にあっせんされて、決勝6着と優勝。あれっ、「小柄かつ華奢で、鋭い差し脚を持つ追い込み選手は弥彦で好走する理論」長いな。いけるんじゃないか。椎木尾や坂口を連に絡めて、大穴を狙ってみませんか？9車立てだから、ワイド車券も面白い。

競輪のスピードはどんどん上がっているけど、全部が全部そういう訳ではない。10月末はバンクが重くなるし、1日12レースあって、脇本雄太が走るレースはひとつしかないんです。かつての山口みたいな選手が突っ込んできて、穴をあける競走は何個かありますよ。なんといっても直線が63・1mあるんだから、弥彦は。

▽弥彦競輪 寛仁親王牌

世界選手権記念トーナメント  
好走するはずの選手 第1話

【新潟スポーツ 信氏 忠】

